

平成16年度都市システム工学科前期FD 記録

教務担当

 日時：平成16年9月15日

場所：都市システム工学科東棟大学院講義室 13:30～18:00

参加者：

 学科内：安原、福沢、小柳、三村、横山、沼尾*、井上、神子、山田、横木、小峯、桑原、
 原田、信岡、村上（*途中、学科長会議出席のため退座）

学科外：天野(理学部)、三上（非常勤講師）

サポート：木村技官

 欠席：呉（海外出張）、山形(副学長)、金(病休)

はじめに

福澤（教務WG長）より、当日のFDの内容および進行について説明された。

第1部 平成16年度「授業点検」の報告

信岡（教務WG委員）より、授業点検記録の提出状況が述べられた。横山（JABEEWG長）より授業点検記録の内容について説明された。以下は、説明と質疑応答である。

資料1の説明：横山

提案：仕事の分担

- 質の保証：JABEE 担当
- 改善：教務担当
- FD：教育改善委員会

p.03 JABEE、第三者に説明するため、見る人（確認する人）のことを意識して作る。

p.04 「7」：ファイル様式

 p.05 できない生徒（成績E）は、来年、最勉強してもらい、学科コンセンサス（得たい）
 成績Eの学生が多い時にでも、配慮は一切しないように。

PDCAシートを確立することが必要 「Plan, DO, Check, Action」

p.12 成績評価方法：グループネットワーク

質問&コメント：天野先生

出席は成績評価の点数に入れてはいけない。

質は最後に出来上がったもので評価される。

「D」の学生が、妥当な品質を得ていることが重要

回答：横山

出席点 10%ぐらいは良いか（大阪大の先生）

講義と実験、ゼミナールなど科目の性質で異なるのでは。

「D」の学生の資料がすぐに出てくるようにすること。

回答：天野

横山 に対して：実習などは良いがその他はNG

コメント：山田：

に対して：「D」はとっているけど、教育目標の一部に対して能力が満たしていない学生の情報が必要ではないか。

第2部 平成16年度の授業アンケートの評価

A・全体

井上(教務WG委員)より,系統別(構造系,環境系,共通)および科目種別(必修,限定必修,選択)の観点から整理された結果が報告された。以下は,質疑である。

質疑-1:力学系の問題点に関して

コメント:安原

(構造系の結果に対して)毎年,改善努力をしているが,改善が見られない。

構造グループ全体で検討する必要があるのでは。

質問:福沢

水理学が良い結果が出ているが,ポイントは

回答:三村

水理学は力学で構造系と同じである。講義で分かってほしいことを絞った。流体では複素関数論で流れ場を表す節があるが,話題に触れるが,詳細は説明しない。單元ごとに,重要度をA(とにかくできるように)B(教科書を理解)C(話を聞く)にわけている。授業の最後20分ほどで,その日の内にやったことの簡単な演習問題をやらしている。

コメント:安原

授業の終わりに,簡単な例題を出すことは良いことと考えられる。

質問:****

回答:三村

原理などを説明し,使えるケースを示す。わかった雰囲気になる。

数学的に理解するまでは求められないのは,ランクCの項目。

本当に必要になれば,自分で勉強するだろうと考えている。

コメント:横山:

ポイントを絞ると,範囲が狭くなる。後の科目に,影響が出る。

また,力学でやったことを,構造でやるなど,無駄がある。

カリキュラムの洗練が必要である。

コメント:安原

物理,数学の習熟内容をカリキュラム上で洗練する必要がある。

コメント:村上

設計演習なども(構造系と)同じような問題がある。品質保証ができるのか。

コメント:小峯

応用科目でも,演習をもっとやって欲しい声が多い。話をじっくり聞いて理解する科目も,必要である,応用ではそうであろう。A~D(三村先生の重要度)まで全部教えるほうが良い科目もある。

質疑-2:アンケートの方法について

コメント:村上

学生実験など複数の教官の科目全体で,アンケートを行うと,意識が繋がらない。

回答:横山

授業アンケートは,学部統一のも。必要なものが別にあれば,別にアンケートする。

回答:横木

一人一人の教員をするように。学部では動いている。

コメント:山田

点検改善表の最後に,何をすべきか,ここを決めること,次年度に改善しているか確認する。

質疑-3:アンケートの公開について

コメント:桑原

学生からアンケートの結果を公表して欲しい意見がある。

また,学生がアンケート疲れする問題がある。

回答():横木

工学部全体で行うのは,まだ難しい。

回答() : 横山

学科だけでも公表すべき。人材広報の仕事。

コメント : 天野:

人気投票になっているとの意見が理学部で強い

(理学部では)、物理や数学系の科目で厳しい評価。授業のピュアレビューを行う計画がある。

B・演習科目の詳細

土木計画論演習

山田が、土木計画論演習について、下記の項目について説明した

授業の位置づけ(土木計画論との関係)

授業の狙い

授業内容

アンケート、点検結果

建設工学演習

三村が、建設工学 全体について、内容と状況を説明した。また、水理、構造、土質の各科目について、担当者が追加説明をした

講義の狙いと概要

成績

授業の評価

自己評価と課題

水理1、構造1、土1の各演習の実態と点検(三村、原田、安原)

質疑 1 演習科目の位置づけ(主に建設工学演習 に対して)

コメント : 横木

試験問題が難しい、or、授業自体が分かりづらい。

コメント : 安原

理解度、講義との関連を明確にする必要がある。

コメント : 三村

演習の仕方が、まだ成熟していない。式を覚える、理解する、覚えるな、と各科目ですれていて、学生が混乱するのでは。

コメント : 小峯

演習にあたる科目は、原理原則を頭の中で理解するのを助けるため

設計演習: 実際の応用。

コメント : 神子

レベル設定をどうするかが、重要である。

回答 : 三村

次年度、レポートなどを課すことを検討する。

コメント : 2年生の前期では、勉強の仕方がわかっていない。

コメント : 原田

演習の目的や方法を、学生が理解できていないのではないか。

回答 : 三村

前半は講義、後半は演習を集中することができないか、など検討する。

第3部 卒業研究指導方法の報告と議論

福澤より、卒論テーマの設定を含む各教官の卒業研究指導方法およびその全体的傾向について報告した。続いて、各研究グループを代表して、構造系（井上）、材料（福沢）、地盤（小峯）、計画（山田）、景観（桑原）、水圏（横木）より各自の卒業研究実施方法について説明された。

各説明で印象的な内容

福沢：学生が自立的にできるようになると、個別指導にする（＝12月）
年度始めに、過去の卒論を読み、発表させる（卒論全体の感覚）

小峯：5月に背景と初心表明

その後、月1回の議論の場で、研究室全体で揉んでいく。

（学生主体、まず学生が質問する。教官は最後部に座っている）

学外発表は技術の伝承であり、研究者だけでなく技術者にとっても重要

「なぜと持った疑問について、分かったことは、人々に伝えたい」とが本質

桑原：早稲田宇都宮計画系と合同ゼミ（9月）など他流試合

研究テーマごとの学生グループ化（相談役の院生を決める）

横木：M1と4年での勉強会、仮配属で論文執筆方法を勉強。

質疑

コメント：井上

全体的に、どの研究室もしっかりやっている。

コメント：三村

JABEEで、「卒業研究」の教育目標を達成したか、を如何に示すかが問題。

回答：山田

個々の生徒ごとに教育目標を設定し、評価することを、個々の教官に期待する。

コメント：三村

報告書式が学科統一されていると良い。

コメント：横山

シラバスで、卒業研究を通しての目標をしっかりと定める必要がある

判定について、「どういう方法で、判定基準は何か」それらの記録を残す必要である。

コメント：三村

卒論の教育効果は大きい。それをどのように外部に示すか、とくに質の面で難しい。

おわりに

FD研修会に対するコメント

三上先生：

FDは反省会と聞いていたが、指導方針や授業方針で多種多様と感じた。

昔からは進歩したと印象。品質保証は、どういう質の生徒が必要か。

オールラウンドより、ある面で優れた能力を身に着けている人を求めている。

卒論のテーマが仕事に役立つ直接的な仕事はまず無い。卒論執筆と外部発表は、世の中に出てもとても役立つので良い。

天野先生：

理学部では、まだFD（開催）を検討中。今回のFDは、非常に参考になった。

（JABEE会議情報）、ワシントンコードのコメント、「項目）デザイン能力」が貧弱である。卒論に全部かぶせているのが日本の一般的な現状である。土木計画論演習などで、デザイン能力の科目が含まれている点が良い。

福沢のまとめ

(1) 授業点検記録の集計について、ほとんどの教官から提出されるようになった。今後は、PDCAサイクルを回す方法の改善を行わなければならない。

- (2) 演習科目は、今年は、2年目にあたるが、まだ方法・内容ともに、不十分であり、今後の改善が望ましい。
- (3) 卒業研究のテーマの決め方は、構造系と計画系で大きな差があるものと予想されたが、ともに教員の誘導によって行われていることがわかった。
- (4) 共通的なシラバスの作成・単位評価の方法の基準化などは、今後の課題である。

(以上)